

経済・金融 フラッシュ

米8月 CPI は前年比 3.8%、 PPI は同 6.5%と高めの推移

経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail: doihara@nli-research.co.jp

米国の8月CPI(消費者物価)は、前月比0.4%、前年比では3.8%とやや高めの上昇を見せた。一方、PPI(生産者物価)は、前月比では横這うものの、前年比では6.5%と高い伸びに留まる。いずれもエネルギー価格の動向に左右されているが、エネルギー・食品を除いたコアベースのCPIでも、前年比2.0%となるなど、QE2実施直前の昨年10月以降ほぼ一貫した上昇を見せている。

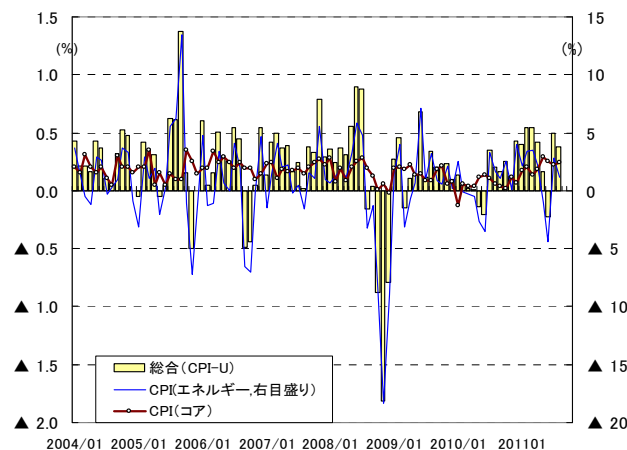
(消費者物価の動向)

1、8月CPIは前年比3.8%(コア2.0%)と上昇幅を拡大

米労働省が15日発表の8月CPI(消費者物価)は前月比0.4%(7月同0.5%)と連月で上昇、市場予想(同0.2%)を上回った。ガソリン価格は同1.9%と連月で上昇、エネルギー価格全体でも8月は同1.2%と同様な動きを見せた。これらのエネルギー・食品価格を除いたコアCPIでは前月比0.2%(7月同0.2%)と上昇、市場予想と一致した(図表1)。

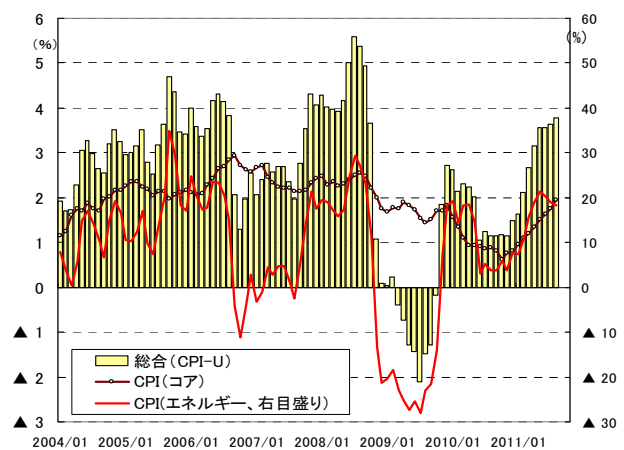
前年比のCPIは3.8%と7月同3.6%から上昇した。前年比ではガソリン価格の上昇が32.4%と大きく、エネルギー価格全体でも18.4%の上昇となる。なお、前年比のエネルギーや食品価格を除いたコアCPIは2.0%(7月同1.8%)の伸びに留まるが、QE2実施の直前にあたる、昨年10月の同0.6%をボトムにほぼ一貫して伸びを高めている(図表2)。

(図表1) 消費者物価指数の推移(前月比)



(資料) 米労働省

(図表2) 消費者物価指数の推移(前年比)



(資料) 米労働省

CPIの内訳を見ると、財物価では前月比0.6%、サービス価格は同0.2%の上昇となる。財物価の中では、エネルギー価格以外では女性物衣料品(同2.1%)が高く、半面、パソコン等(同▲2.7%)のマイナスが大きかった。一方、サービス価格では、公共運賃(同0.6%)、病院(同0.5%)、家賃(同0.4%)等を中心に上昇した。

(生産者物価の動向)

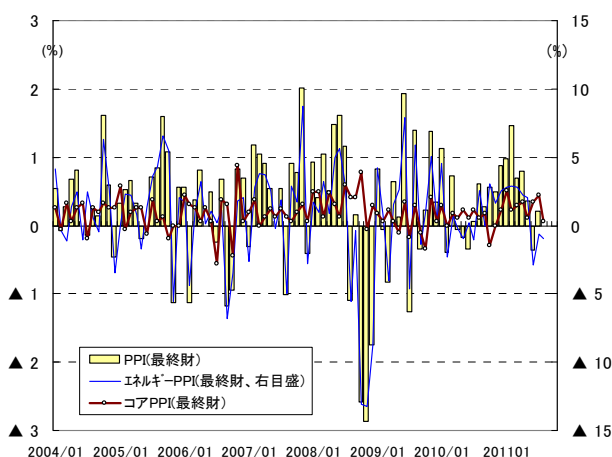
2、8月PPIは、前月比横ばいも前年比は6.5%(コア2.5%)と上昇

8月PPI(生産者物価、最終財)は前月比横ばい(市場予想に同じ)となり、7月同0.2%から伸びを縮めた。エネルギー価格が前月比▲1.0%(7月▲0.6%)とCPIとは対照的に3ヵ月連続で低下する中、食品価格が同1.1%(7月0.6%)と3ヵ月連続で上昇した。一方、エネルギー・食品価格を除いたコアPPIでは、同0.1%(7月0.4%)と市場予想(0.2%)を下回ったが、昨年11月以降の上昇が続いている(図表3)。

前年比のPPIは6.5%と上昇(市場予想同6.5%)、前月(7月7.2%)より上昇幅が縮小したが、依然高水準にある。前年比ではエネルギー価格が同15.9%と大幅な上昇を見せており、食品価格も同8.4%と上昇が大きい。原油価格の上昇を受けたガソリン価格は同32.8%、家庭の暖房向けオイルでは同37.0%の大幅上昇となった(図表4)。

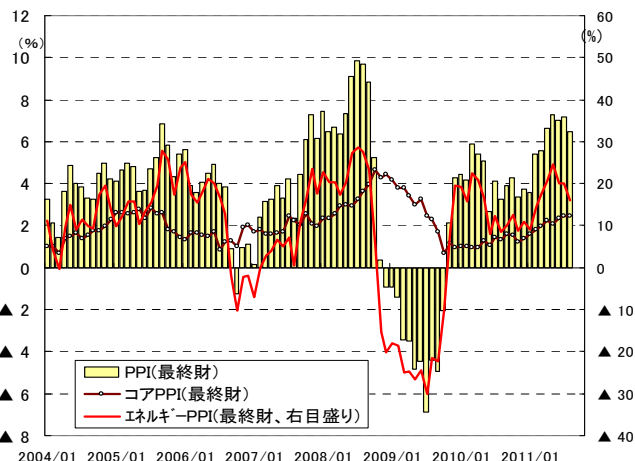
一方、エネルギー・食品価格を除いた前年比のコアPPIは、2.5%(7月2.5%)と市場予想(2.6%)をやや下回った。宝石・貴金属(同19.8%)、食器(同17.2%)、タイヤ(同12.6%)等の消費者向け商品の上昇の一方、コンピュータ(同▲13.3%)の下落が目立った。前年比のPPIでは、原油価格上昇の影響が色濃く残る状況となっているが、コアベースのPPIにも、国際商品価格上昇の影響がうかがわれる。なお、8月PPI(中間財)では前月比▲0.5%(7月0.2%)、前年比10.3%、8月PPI(原材料)では前月比0.2%(7月▲1.2%)、前年比18.4%、また、コアベースでは、コア中間財が前月比▲0.6%、前年比10.0%となっている。

(図表3) 生産者物価指数の推移(前月比)



(資料) 米労働省

(図表4) 生産者物価指数の推移(前年比)



(資料) 米労働省

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。